

研究結果報告書

地域再生と発展モデル：日本の経験と韓国への教訓

所属：漢陽大学校 国際学大学院 日本学科

役職：特任教授

氏名：田 英 洙 （他3名）

当初、地域再生のための4大発展モデルを東京都世田谷、千葉県柏市、兵庫県神戸市、岡山県真庭市としていたが、モデル事例の再調査の結果を踏まえ、また予算減額と、日程の確保、それに伴う効率を考慮し、大阪府豊中市、兵庫県篠山市、香川県高松市、岡山県真庭市、に再設定して訪問した。

大都市モデル：大阪府豊中市

政府の総合戦略に合わせ、拠点整備、産業振興と労働、まちづくり、子育て、教育等の目標を掲げてはいるものの、これを行う担い手がない、行政と民間が完全分離しており全く連携ができていないなどの問題が見えた。

行政としては地域自治を行えるような機会を設けているが、市民の関心は低く、民間NPO団体等も行政とは別の方法で市民との活動を行っている。

今回、取材を行った豊中駅前まちづくり会社は各種セミナー、フォーラムを通じて市民がまちづくりに興味を持つような活動を積極的に行っている。

広域自立型 中小都市モデル：兵庫県篠山市

兵庫県篠山市は行政とNPO団体、市民グループとの連携が良く、市民が自ら動く仕組みができています。関係する地域コミュニティとの話し合いが密に行われており、地域の特殊性を生かし柔軟にまちづくりへの対応ができています。

人口減は見えるものの空き家活用と定住促進プログラムにより着実に成果を上げることができています。NPO団体や行政と民間との中間支援組織もかなり活発に活動しており、都市としてのブランド価値も上がっている。

広域依存型 中小都市モデル：香川県高松市

香川県の県庁所在都市であり、その中心にある高松丸亀町商店街を訪問。郊外のショッピングモール建設により都市中心部の通行量、売り上げともに急激に減少した。しかし、丸亀町再開発事業において民間主導の突出したリーダーの存在により、事業成功に導かれた。行政からの支援は形式的な資金援助のみであり、地元を知りつくし、一体的にマネジメントができる仕組みを推進する「まちづくり会社」による一括管理によって、時代のニーズに合った都市中心部でのテナントリーシングが行われていることがわかった。

農村モデル（限界集落）：岡山県真庭市

真庭市は、「日本の農山村のモデルを目指して」をテーマに地域資源を生かした地域戦略を立てている。林業を軸とするバイオマスを活用したプロジェクトで、地域の活性化に成功している。地域内の連携が非常に良く取れており、一貫した戦略によって持続可能なまちが作られている非常に良いモデルである。地域資源を活用し、行政と民間が連携して、ここまで成功に導いたことに驚かされた。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

研究責任者 田英洙

・実績

과소지역의 지속가능성 탐색: 지역재생으로서 마니와(真庭)모델

過疎地域の持続可能性探索: 地域再生としての真庭モデル

(Seeking the Systematic Sustainability of Depopulated Areas : The Maniwa Model as Regional Revitalization)- 韓国日本学会 第109集, 2016.11, pp. 289-312 (24 pages)

・計画 (2017年以降)

'지방도시의 지속가능성 탐색: 지역재생으로서 마루가메 모델'

(地方都市の持続可能性探索: 地域再生としての丸亀モデル)

'지역재생의 성공조건: 일본적 모델의 한국적 도입'

(地域再生の成功条件: 日本的モデルの韓国的導入)

共同研究者 金惠淑

・計画

博士論文 (2017年8月取得目標) : 住民自治型地域再生のための日本事例分析 (課題)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)